

# まる さんかく しかく おえかき

本日のレッスンの「まる さんかく しかく」カリキュラムは、白いまるさんかくしかくと色画用紙の上に白い単純な形をのせて「この形は何に変身できるかな？」と遊びを通して発想して描画をするカリキュラムですので、ちょっと絵が苦手な子どもでも「あ！～～に見えた！」と絵を描くきっかけを生み出して安心して取り組んでいることと思います。

また絵を描くことが得意な子ども、いつもと違った単純な形の組み合わせでしか絵が作れないので、いつもと違った表現を描くきっかけが生まれることと思います。子どもの絵の発達段階を踏まえて、カタログ期、図式前期の頃は見たもののそのものを描くのではなく、感覚的に覚えた表現を、まるで記号の様に繰り返しながら絵を描いていきます。

- 太陽はまる
- お顔はまる
- お花はこんな形  
など

白いまるさんかくしかくという基本的な形は記号のイメージに繋がりがやすく見立て遊びから制作につながられます。効果として、見立て遊びを伸ばすことはひとつの物事からさまざまな答えを導き出す力を育てます。

この時自分が今まで覚えてきた知識や見たものをフル動員して「なんとかしよう」と多少強引な見立てをして発想をすることこそ、その子の「ひらめき力」が育ついい機会となると思います。是非ともその子が見立てた「発見」をめいっぱい褒めてあげて認めてあげていっぱいお話を聞いてあげてくださいね。自分の気持ちや、発見を大好きなお父様やお母様に認めて聞いてもらえる子は、自信も生まれ自分を愛する力が育ちます。自己肯定感が大きく育てられた子ほど他者を認める優しい気持ちが育ちます。

そして「つぼのり」を使うのは、なぜ？

理由は感覚教育のためです。赤ちゃんは養育者とのスキンシップを初めとして、外界を感覚で探って成長していきます。子どもが発達していく段階で、手を使っているいろいろなものをつかみ、指先でものを操作することがとても大事です。もちろん手だけでなく、身体感覚は子どもの発達に大きく関わっています。

大人は手やまわりが汚れないこと、作業の効率性、身体と分離した頭脳面の能力といったことに目が向きがちです。指先を使うことは脳の発達にも関係しています。泥遊び砂遊びも大切だと思います。

このような教育観に基づいて、つぼのりを使用しています。